

区分・種別	重要文化財（建造物）		
名 称	おおずじょう 大洲城 3 棟 附 棟札 2 枚		
所 在 地	大洲市大洲		
所 有 者	大洲市	管 理 団 体	
指定年月日	昭和32年6月18日		
解 説	大洲盆地の中心を流れる肱川の左岸に接し、大洲市街地近くにある小高い丘陵を利用して築かれた平山城で、慶長年間（1596～1615）に藤堂高虎・脇坂安治によって建築整備されたものといわれている。かつてこの城は天守をはじめとして20棟余りの櫓からなっていたが、今は4棟の櫓が残っているだけである。 高欄櫓は江戸時代末期、万延元年（1860年）に再建されたもので、二重二階櫓、本瓦葺である。北側に渡櫓が接続して天守に通じているもので、上層の屋根には軒唐破風がつけられ、擬宝珠のついた高欄が縁をめぐらしている。また西南隅に袴腰形石落しを付け、この建物に威容を添えている。 台所櫓は安政6（1859）年に再建されたもので、二重二階櫓、本瓦葺である。もとは天守に渡櫓で接続され、1階は土間と板張り2室、2階は1室となっている。規模は高欄櫓よりやや大きく、入母屋造で、中央に花頭窓が設けられている。 苧綿櫓は天保14（1843）年に築造されたもので、二の丸の東隅にあって独立した櫓である。二重二階櫓、本瓦葺で規模は小さい。外隅に袴腰形石落しをつけ、その一部は窓となっている。なお、この櫓の棟札2枚があわせて指定されている。 平成16年に高欄櫓、台所櫓を連結するか形で四層四階の天守と多聞櫓が復元されている。		



左から高欄櫓・（復元天守）・台所櫓